

作曲家・中村洋子によるアナリーゼ講座

# バッハ「平均律クラヴィーア曲集第1巻」と、 この「1巻を源泉とする名曲」 (全4回)

## 第4回

### 「平均律1巻」8番プレリュード「es-Moll」とフーガ「dis-Moll」

- 音楽史上に燦然と輝く「異名同音調」によるプレリュード&フーガ、「5度圏の調」の妙
- 平均律1巻全24曲の中で「8番」の意味する重要性

■日 時: 2020年1月18日(土) 14:00~18:00

■会 場: エッサム本社ビル4階 こだまホール

住所: 東京都千代田区神田須田町1-26-3 TEL: 03-3254-8787

(JR神田駅 北口 徒歩3分) ※エッサム1、2号館ではありません

■受講料: 4,000円(税込)

■定 員: 70名

12月3日(火)よりお申し込み受付開始!

★明るく屈託のない「7番フーガ」と、魂の奥底から絞り出されたような嘆きを歌う「8番プレリュード」は、各々が独立した別個の曲のようにみえます。しかし、「8番プレリュード」のバッハ自筆譜を、7番フーガの上に重ねてみますと、そのレイアウトやモチーフ、和声があまりにも見事に一致していることに、驚愕します。これが平均律クラヴィーア曲集第1巻の凄さです。全24曲が、一つの有機体のように息づいています。

★「8番プレリュード」の調性は「es-Moll 変ホ短調」、「8番フーガ」はその異名同音調の「dis-Moll 嬰二短調」です。この調性につきましては、私が書きました《ベーレンライター版平均律1巻楽譜に添付の「前書きに対する注」》14~15ページの【注5】「5度圏の調」を、お読み下さい。

★この音楽史上、画期的な調整設定のアイデアは、前回講座で取り上げましたベートーヴェンの「月光」、ショパン「雨だれ」へと、天才がリレーして続いています。

★「8番フーガ」の15小節目上声「h<sup>1</sup>」から「h<sup>2</sup>」へと駆け上る音階のベクトルは、「24番プレリュード h-Moll」の1小節目「H」から「h」へと上行する音階へと、つながります。この「8番プレリュードとフーガ」は、平均律1巻24曲のちょうど3分の1に位置していることと、偶然の一致ではありません。

(講師: 中村洋子より)



《お申し込み・お問い合わせは》

アカデミア・ミュージック株式会社

Tel. 03-3813-6757 (日曜定休) E-mail. [analyzation\\_lecture@academia-music.com](mailto:analyzation_lecture@academia-music.com)

(お申込みの際、お名前、住所、電話番号を明記してください。)

※定員になり次第、締め切らせていただきます。

## 「平均律1巻」8番プレリュード「es-Moll」とフーガ「dis-Moll」

### ・プレリュード es-Moll

爪弾かれたリュート風の分散和音を下声の伴奏とし、上声のソプラノで受難のアリアを切々と、全曲を通して歌い上げているかのような曲想です。8小節目上声では、一時的に、リュートの分散和音のような音型が、上声に移動します。当時の楽器ではとても高い音である「ces<sup>3</sup>」音(《ベーレンライター版平均律1巻楽譜に添付の「前書きに対する注」》の23～26ページ【注21】を参照)を、3回畳み掛けます。この「ces<sup>3</sup>」音が、その後どの箇所でもどのように奏されていくかを、自筆譜により追跡していきますと、バッハの大きな構想が忽然と浮かび上がってきます。

### ・フーガ dis-Moll

1小節目の主題(Subject)冒頭は、1拍目「dis'」から2拍目「ais'」です(これは横の線)。3小節目3拍目の応答(Answer)の開始時は、ソプラノ声部「ais'」とアルト声部「dis'」が、空虚5度(和音)を形成します(縦の線)。このやや古風で空虚な響きは、その後の「主題の反行、拡大」など充実した発展の中で、忘れ去られたかのようにみえますが、52小節目1拍目の半終止の後、2拍目「dis-ais」、3拍目「dis'-ais'」に二つのむき出しの空虚5度(和音)を再度、現出させます。バッハは何故、滔々とした大河のようなフーガの流れに水を差すように、音の流れを堰き止めたのでしょうか?その訳は、プレリュードとフーガの「調性」にあります。講座で詳しくご説明いたします。

## 講師：作曲家 中村洋子

### 【プロフィール】

東京芸術大学作曲科卒。

・2008～15年、「インヴェンション・アナリーゼ講座」全15回、「平均律クラヴィア曲集1、2巻アナリーゼ講座」全48回を、東京で開催。

自作品「Suite Nr.1～6 für Violoncello 無伴奏チェロ組曲第1～6番」、「10 Duette für 2 Violoncelli チェロ二重奏のための10の曲集」の楽譜を、ベルリン、リース&エアラー社(Ries & Erler Berlin)より出版。

「Regenbogen-Cellotrios 虹のチェロ三重奏曲集」、「Zehn Phantasien für Celloquartett (Band1, Nr.1-5) チェロ四重奏のための10のファンタジー(第1巻、1～5番)」をドイツ・ドルトムントのハウケハック社 Musikverlag Hauke Hack Dortmund から出版。

・2014年、自作品「Suite Nr. 1～6 für Violoncello 無伴奏チェロ組曲第1～6番」のSACDを、

Wolfgang Boettcher ヴォルフガング・ベッチャー演奏で発表。(disk UNION: GDRL 1001/1002)レコード芸術特選盤。

・2016年、ブログ「音楽の大福帳」を書籍化した《クラシックの真実は大作曲家の「自筆譜」にあり!》～バッハ、ショパンの自筆譜をアナリーゼすれば、曲の構造、演奏法までも分かる～(DU BOOKS社)を出版。

・2016年、ベーレンライター出版社(Bärenreiter-Verlag)が刊行したバッハ「ゴルトベルク変奏曲」Urtext 原典版の「序文」の日本語訳と「訳者による注釈」を担当。

・2016年、ギターソロと二重奏の作品集「夏日星」を収録した《CD 夏日星》を発表。

・2017年、ベーレンライター出版社(Bärenreiter-Verlag)が刊行したバッハ「平均律クラヴィア曲集第1巻」Urtext 原典版の《「前書き」日本語訳》《「前書き」に対する訳者(中村洋子)注釈》《バッハ自身が書いた「序文」の日本語訳》《バッハ「序文」について訳者(中村洋子)による、詳細な解釈と解説》を担当。

・2017年、「チェロ四重奏のための10のファンタジー(第2巻、6～10番)」を、ドイツ・ドルトムントのハウケハック社 Musikverlag Hauke Hack Dortmund から出版。

・2016～18年、「ゴルトベルク変奏曲・アナリーゼ講座」全10回、「平均律クラヴィア曲集第1巻第1番～6番・アナリーゼ講座」全6回を、東京で開催。



### アナリーゼ講座今後の予定 [NEW] 来期の開講日が決定いたしました

♪2020年5月16日(土) ♪2020年9月12日(土) ♪2021年1月23日(土)

詳細が決まり次第、「アナリーゼ講座特設ページ」にてお知らせいたします!

[https://www.academia-music.com/user\\_data/analyzation\\_lecture](https://www.academia-music.com/user_data/analyzation_lecture)